



ASAHIYAMA ZOO

旭山 どうぶつえん

# モユク・カムイ

★モユク・カムイ (アイヌ語でエゾタヌキのことです。)

1987.10

NO.

10



●オオタカ  
*Accipiter gentilis*

旭川はタカの多いところとして有名です。河川が何本も集まり、そこに河川林が緑の道路のように重なっています。またあちこちに森があり、小高い山がその周りを取り囲んでいます。そんな環境がタカの仲間の餌となる小鳥や小動物をたくさん養えるのでしょ

うでしょう。  
旭川の近郊に『<sup>ちかみ</sup>近文』という地名があります。アイヌ語で『チカ・ブミ』、“タカのいるところ”という意味です。それを和訳した『<sup>たかす</sup>鷹栖』という町もあります。

旭川近郊で記録されているワシタカの仲間はオジロワシ、オオワシ、トビ、クマタカ、オオタカ、ハイタカ、ノスリ、ケアシノスリ、シロハヤブサ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、チョウゲンボウなど13種です。このようなワシタカのすんでいける環境をいつまでも守っていききたいですね。

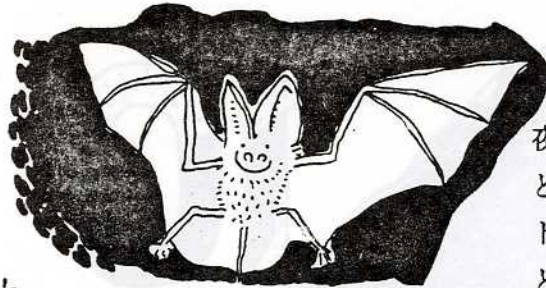




# 夜の動物

今年旭山動物園開園20周年記念として8月7日から16日までの10日間、夜の9時まで開園時間を延長する『夜の動物園』を実施し、たくさんの人たちにいつもと違う動物たちの表情を見ていただきました。

そこで今回は「夜の動物たち」にスポットをあててみました。



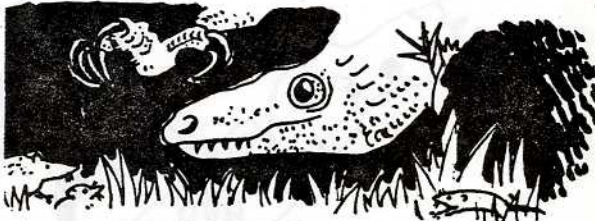
## 夜……!!

恐ろしい話を聞いたり、読んだりすると暗い夜がとても恐ろしく、「早く朝が来ないかなあ」と思ったことはありませんか。それは私たちヒトが『昼間の明るい世界』の動物なので、暗いところでは物がよく見えず不安になるからでしょう。ヒトのほか、ほとんどのサル、鳥、爬虫類、昆虫などが昼の世界の動物たちです。

## なぜ夜行性になったの?

●ほとんどの「けもの」は夜行性、つまり『色のない世界』の動物です。

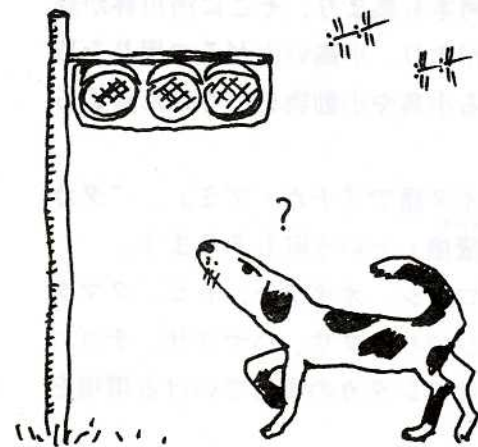
哺乳動物(けもの)はもともと小さな夜行性の動物でした。遠い昔、地球がまだ恐竜たちの世界であった頃(中生代)爬虫類から分化した原始哺乳類はネズミのような姿をしており、恐ろしい爬虫類に隠れて夜ひっそりと活動していました。それで哺乳類には夜行性のものが多いのです。



## 夜の動物は色盲なの? ☆

光を感じる細胞は網膜にある視覚細胞で、[色]を感じる『錘状体視細胞』と[明暗]を感じる『杆状体視細胞』があります。

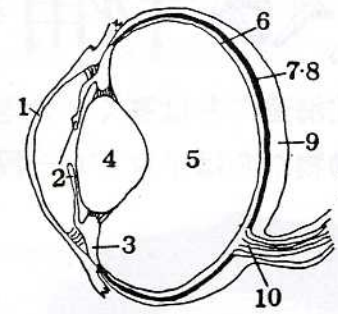
昼間活動する動物には『錘状体視細胞』をたくさん持っているため色を感じる能力(色覚)が備わっています。でも、夜活動する動物は「くらい色のない世界」で活動するために『杆状体視細胞』を発達させ、暗いところでもよく物を見ることができます。その半面『錘状体視細胞』の数は少なく、色を見分ける能力はかなり劣りますがまったく色を識別できないわけではありません。



## ネコの目はなぜ光るの?

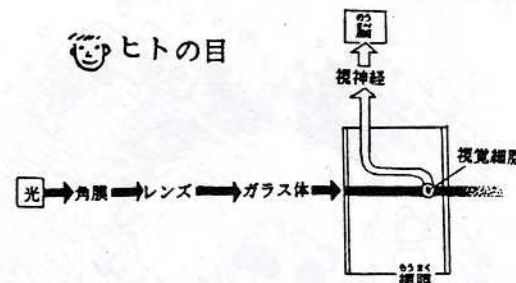
夜に活動する動物は少ない光りの中で物を見なければなりません。少ない光りを有効に利用するように目の奥(脈絡膜)に反射板(輝板)を持っており、反射板で跳ね返った光りを視細胞がもう一度キャッチすることで2倍の光として感ずることができるのです。イヌやネコの目が光るのは目の奥の反射板から光が跳ね返ってくるからなのです。

目の解剖図

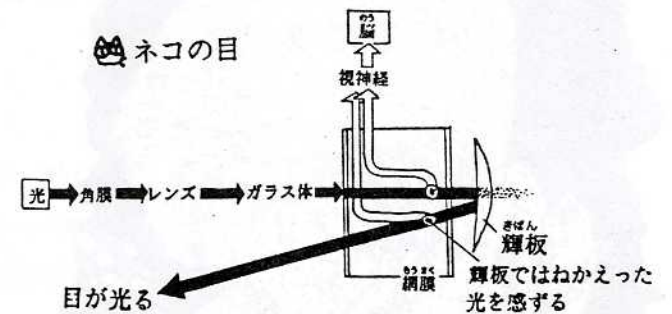


- 1 角膜
- 2 虹彩
- 3 毛様体
- 4 レンズ(水晶体)
- 5 ガラス体
- 6 網膜
- 7 脈絡膜
- 8 輝板
- 9 強膜
- 10 視神経

ヒトの目



ネコの目



## 夜の鳥は? ☆

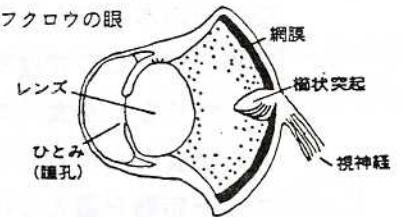
鳥はもともと『明るい色のある世界』の動物ですから、色覚が発達しており、色あざやかな種類がたくさんいます。夜行性の鳥は鳥全体の約3%にすぎません。主にフクロウ、ヨタカ、カモの仲間が夜行性です。

大きな瞳(ヒトの眼に比べて100倍の集光能力をフクロウ持ちます。)

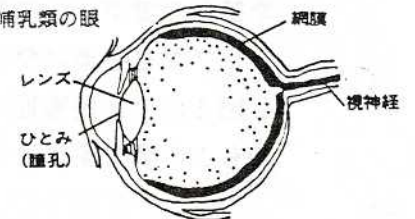
## フクロウは昼間も見えるの? ☆

フクロウの仲間は「夜の鳥」の代表ですが、一般にいわれているほど“驚くべき視力”は持っていないようです。夜行性の鳥にもかかわらず色も識別できます。夜の視力はヒトの3倍の感度を持っているくらいです。また、昼間も目は見えており、シロフクロウやコミミズクなどのように日中でも狩りをするフクロウもいるくらいです。

フクロウの眼



哺乳類の眼

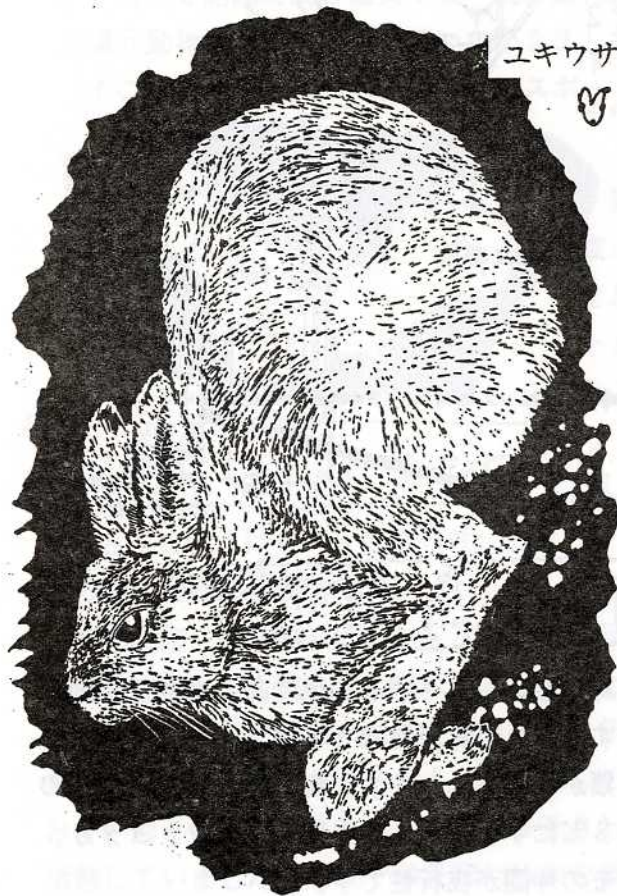




# 冬への準備

北海道の野生動物

北海道の冬は寒く、大地は雪に覆われてしまいます。動物たちは子育ても一段落し、冬越しの準備に大いそがしです。



**ユキウサギ**：9月に入ると、茶褐色だった夏毛から真っ白な冬毛にかわり始めます。11月には耳の先端を残して真っ白になります。



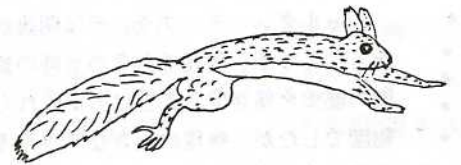
**タヌキ**：タヌキは果実、昆虫、ヘビ等なんでも食べる雑食動物です。しかし動きは鈍く、とてもウサギやネズミを捕って食べることは出来ません。冬タヌキの食べ物はほとんどなくなってしまうので暖かい日以外は寝て過ごします。夏の間は体重が5Kgくらいですがいま頃は一生懸命食いだめして8Kgくらいになっています。

**ヒグマ**：今頃はちょうど山ブドウやコクワなど山の木々にたくさんの実がなる季節です。ヒグマは冬ごもりの間、まったくなにも食べません。ですからいま食べられるものは何でも食べて皮下脂肪を蓄えなければならない季節なのです。山に果実が不足するとヒグマも必至になって食べ物を探し回るので、民家近くに姿を見せるのもこの頃です。



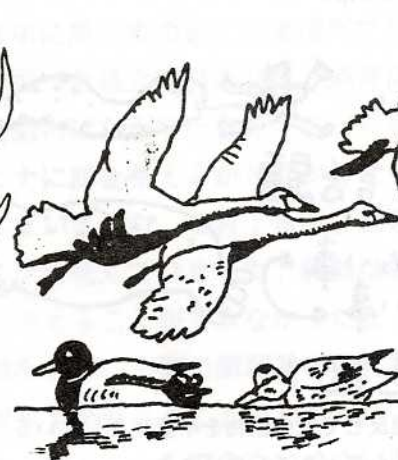
**ナキウサギ**：高山地帯の冬は早いので、もう彼等の干し草作りは峠を越えた頃でしょう。北海道の高山帯にすむ小さなナキウサギが冬ごもりもせずに春を待ちます。

**エゾリス**：エゾリスは冬の間も木から木へ跳び回って活動しています。木の上のほうにある「うろ」や巣の中はクルミなどの木の实や種がぎっしりと集められています。



**シマリス**：エゾリスと違ってシマリスは冬ごもりをします。冬ごもりの間にも時々目を覚まして秋の間に貯めておいたドングリ等を食べています。

**キツネ**：冬も活動していますので、特に冬の準備はしませんが、短かった夏毛が毛あしの長い美しい冬毛になります。



**ハクチョウ**：夏の間シベリヤでヒナを育てていたハクチョウは大きくなったヒナを連れて暖かい日本へ渡ってきます。北海道はその移動の途中に立ち寄ります。

**カモ**：マガモ、オシドリ等はオスの姿が美しくなります。秋になると大きな群れになる傾向があります。

**エゾシカ**：夏の間、メスのグループはこどもを育て、オスはオスだけのグループで暮らしていましたが、いま頃からオスの角も立派な枝角となりオス同志のなわばり争いが激しくなり、強いオスがメスグループの確保に躍起となる頃です。





## オオタカの繁殖



旭山動物園には、現在12種のワシタカ類と7種のフクロウ類が飼育されています。昭和55年にオオコノハズクが日本の動物園で初めて繁殖に成功し、日本動物園水族館協会の繁殖賞を受賞しています。その後もコノハズク、エゾフクロウ、ノスリ等が産卵はするのですが、なかなか孵化までは至りませんでした。

オオタカも昭和60年から産卵し、抱卵もしていましたが孵化に失敗していました。今年は5月6日、7日、10日、14日と4卵産卵し、メス親が熱心にたまごを温めていました。6月13日、巣を観察したところ、1卵に小さな穴が開いていました。待ちに待った『嘴打(はしうち)』です。翌日、真っ白い綿毛に包まれたヒナが孵化していました。続いて15日、17日と3羽が相次いで孵化しました。

親鳥は昭和58年に旭川市の近く的美瑛町で保護された個体で、動物園にきたときはまだ白い産毛の残った巣立ち前の幼鳥で飼育係の手から餌をもらって育ちました。人間に育てられた動物はなかなか自分でこどもを育てようとはしません。ですからオオタカも親鳥がヒナに餌を与えるかどうかとても心配でした。残念なことに、私達の不安は的中してしまいました。6月18日、最初のヒナが孵化して4日目の朝、巣をのぞくと2羽のヒナが死んでいました。親鳥は巣の中にまで餌を運んでいたのに、それをうまくヒナに与えることができなかったようでした。

生き残った1羽を収容し小型の孵卵器を保育器がわりにして育てることにしました。餌にはネズミの新生児を与えることにしました。初めは元気がなく、頭を持ち上げることもできないくらい弱々しかったヒナも3日目頃から食欲も出てきて、初め45gしかなかった体重も10日後には200g、20日後には500g、30日後には700gと順調に成育 現在はもう成鳥と同じ大きさになりました。

今後もオオタカに引き続いて猛禽類の繁殖に力を入れていきたいと思っています。(土反の)



## げんちゃんが見てきた動物記

### ヨーロッパの動物園 その2

イギリスの次に訪れたのはフランスでした。ここではパリ動物公園とシャルダン・デ・プランテ動物園を見ました。

シャルダン・デ・プランテは開設が1793年で近代動物園としては2番目にできたところですが、現在でもその当時の動物舎や人止め柵がそのまま利用されており動物園の歴史を保存することに力が入られているようでした。敷地面積6.5haと狭い動物園でしたが、無理に大きなゾウやキリンを飼育していないため、きゅうくつな感じを受けませんでした。

パリ動物公園は人工の大岩石を多用していましたが、どの動物舎もグレー一色でもう工夫欲しいところでした。

次に見学したのはスイスのバーゼル動物園です。場所は街の真ん中にあるのですが、動物園の中は深い森の中そのもので、まったく自然のままの大木や池が残されていました。コウノトリやバンなどの野鳥がそこで営巣しており、バンがヒナを連れて、人の歩く道をを我が物顔で歩いています。園内には芝生がなく雑草が生い茂っていました。

草食動物の展示は無柵方式で、動物舎にも木を多用しており、ごく自然な感じがしました。「こんな狭いところで動物たちがかわいそう」という感じを見ている人にも与えない素晴らしい動物園でした。(土反東) (つづく)

## 動物園の話題

ちょっと考えてみたい事  
知ってほしい事

### ワシントン条約とは?

最近、日本がワシントン条約に違反して野生動物を不正輸入している、と国際会議で批判されている新聞記事を目にした事があると思います。

ワシントン条約とは『絶滅の恐れのある野生動植物の種の国際取引に関する条約』というのが正式な名称で、昭和48年ワシントンで会議が開催されたため、ワシントン条約と呼ばれています。条約の趣旨は野生動物の商業的な取引を規制し、野生動物を守ろうということです。対象となる動植物は、その種の状態によって付属書1、2、3と三段階に分けて分類されています。

日本は国内法の整備が遅れ昭和55年にこの条約に加盟しました。残念ながらまだこの条約に違反して不正輸入される動植物は後を断ちません。全ての人達が野生動植物の保護に関心を持って貴重な野生動植物を不正に飼育しないように、また野生動植物を原料とした製品などにも注意を向けてほしいと思います。(kosge)







# 動物園日誌

<昭62.7.19 ~ 9.30>



- 7.19 世界の貝殻展 (~9.27)
- 7.23 エゾシカ4頭、秋田市大森山動物園へ
- 7.26 親子動物教室『動物の行動を探る』
- 7.30 第12回旭山動物園サマースクール (~8.1)
- 8.01 ぬり絵作品展示会 (~8.31)
- 8.02 親子動物教室『うんこに見る行動学』
- 8.05 第1回彫刻の森大会 (~8.08)
- 8.06 動物資料館特別展『サマースクール展』
- 8.07 ナイト・ズー・ウォッチング (~8.16)
- 8.09 親子動物教室『夜の動物たち(哺乳類)』
- 8.10 線香花火大会
- 8.12 ジャズ演奏会
- 8.13 ZOOガイド 愛宕公民館
- 8.16 親子動物教室『夜の動物たち(鳥類)』
- 8.23 親子動物教室『動物のあし』
- 8.24 オオタカ繁殖発表
- 8.27 サル山(アカゲザル)のボス老衰死
- 8.30 ワンポイント・ガイド2部開始  
(日曜、祝日11時から)
- 9.09 ZOOガイド 末広第二保育園
- 9.13 旭山動物園ウォーク・ラリー
- 9.14 エゾシカのボス死亡
- 9.17 日本動物園水族館協会北海道ブロック  
秋期飼育技術者研究会 於 稚内市  
「ホッキョクグマのヘアリング」深坂  
「エゾタヌキの亜鉛欠乏症」坂東 (~9.18)



## ワンポイント 10月のガイド

- 10.04 ライオン・トラ
- 10.10 キジの仲間
- 10.11 ユキウサギ
- 10.18 ゴリラ

★動物資料館特別展『動物の食事・展』  
園内の動物資料展示館1階ホールで  
「特別展」を行つています。(10.04  
~10.18)



今年は10月18日(日)で開園を終了し、来年春まで冬期閉園に入ります。

10月4日には『第1回動物仮装マラソン大会』が予定されており、18日の最終日には『62さよならウォーク・ラリー』が予定されていますので、是非御参加下さい。

## 飼育動物数

(10月1日現在)

哺乳類	38種	153点
鳥類	86	399
爬虫類	4	21
計	128	573



### モユク・カムイ

No. 10

昭和62年10月1日

発行所 旭川市旭山動物園

〒078 旭川市東旭川町倉沼 Tel 0166(36)1104

編集人 菅野 浩

編集委員 小菅正夫 阿部 寛